



どうなんだより

平成30年春号

(株) 奥尻ワイナリー

～奥尻島でぶどうを育みワインづくりに邁進する協業法人～

地域を担う 農地所有適格法人の横顔



所在地：奥尻町
代表者：海老原 浩
構成員：2名
雇用：31名
設立：平成19年3月
事業内容：自社生産のぶどうを使用したワインの製造・販売

人口減少の歯止めに向けて、奥尻島活性化の取り組みを模索し、離島ならではの潮風が育むミネラル豊富なぶどうからできるワインに着目した。また、道内の他ワイナリーの協力を得て、ワイン製造の技術を習得した。原料のぶどう生産では、奥尻島に合った栽培方法を確立し、現在では十数種類のワインを直売所やインターネットを活用して販売を展開している。さらに、工場見学など島の新たな観光資源も生まれ、地域における雇用の拡大にもつながっている。

法人経営のメリット

(1)資金調達力や信用力が向上し、対外的な協力も得やすい (2)生産物販売に関する交渉時にも有効で販売網も広がる (3)各種データを経営向上へ反映しやすい

法人運営のポイント

(1)経営状況や投資計画の正確な把握 (2)構成員や雇用者への円滑な意思伝達 (3)栽培作物の状況や作業進捗状況の把握 (4)働きやすい環境づくり

これから法人化を目指す農業者へ一言

限られた条件下で効率的に労力や資本を投下することは非常に重要。自分達の経営や地域の発展に向けて、法人化は有力な選択肢になると思う。

平成29年度道南地区農業法人セミナー

トピックス

平成30年1月29日(北斗市)、1月30日(せたな町)、道南地区農業法人セミナーを開催し、農家や関係機関等148名が参加しました。

セミナーは、行政からの情報提供として、地域の農家戸数減少を問題提起されました。北海道農業会議から、問題点の把握や手法としての法人化、メリットなど多岐にわたる講演がありました。また、パネルディスカッションでは、渡島・檜山管内で活躍する法人代表者と青年農業者のパネラーから、法人化のきっかけや考え方、規模拡大や事業承継などについて語っていただきました。

2015農林業センサスは地域の農家戸数は減少しています。厳しくなる環境の中、法人化を含め、経営をいろいろ考える良い機会となりました。



写真 北斗会場でのパネルディスカッション

集落営農や農業生産法人に関するお問い合わせは、最寄りのJAまたは普及センターまで。

編集事務局(渡島農業改良普及センター)
電話番号 0138-77-8242